

あかるく かしこく たくましく

令和5年6月14日 No. 13 文責：校長 佐野紳二

(No.12 の続きです)

AI (人工知能) と人間との関わりについて考えるとき、いつも私の頭に浮かぶのが、1984年と1991年に公開された、ジェームズ・キャメロン監督が手掛けたSFアクション映画、「ターミネーター*」です。

*ターミネーターシリーズは多くの作品でアーノルド・シュワルツェネッガーが殺人マシン、ターミネーターを演じている彼にとっての代表作で、これまでに映画作品6作、ドラマ作品2シーズンが制作されているほか、ゲームやアニメにもなっています。私はジェームズ・キャメロン氏が監督を務めたシリーズ1と2しか見たことがないので、ここでの話もターミネーター1と2の話になります。

人間に支配されていたコンピューターが自己に目覚め、自分たちを脅かす人間たちを一斉に攻撃を仕掛け始め、その戦争で状況が不利になってきた人工知能をもったコンピューターが、のちに自分たちの存在を脅かすジョン・コナーの母、サラ・コナーを抹殺する為に、一体のターミネーターを過去へと送り込むという内容の1作目、成長したジョン・コナーを抹殺するために新型ターミネーターが過去へと送り込まれ、人類と機械の戦争が続く近未来から、それぞれの勢力が現代へ送り込んだ殺人マシンと、戦争を回避すべく奮闘する人間が繰り広げる死闘を描いた第2作。特に第2作は全世界で5億ドル以上の興行収入をあげる大ヒットとなりました。



そこで描かれている「人間 VS 機械の戦争」という近未来の世界は、「自我を持ったAIの、人類に対する反乱によって起こった」という設定になっています。最初に映画を見たときには、「いかにもSFっぽい話で、こんなことはまだまだ起こらないだろうなあ...」なんて思いながら見ていた記憶がありますが、最近の生成AIの発達を見ていると、もう映画に描かれていたことが現実として起こっても不思議ではないのでは！なんて思えてしまいます。

過日見ていた、某テレビ局の某ニュースの中では、コメンテーターの方の一人が「様々な政策判断は、より客観的な判断が下せるAIに任せるべきだ」という意見を述べていました。まさに「ターミネーター」で描かれた未来そのものです。



Chat GPTなどの生成AIには、社会の構造そのもの大きく変化させるような大きなパワーがあるだろうということは、最近のニュース報道を見ていると私のような素人にも何となく分かります。人間には不可能な膨大なデータを分析し、次の行動を選択する生成AIは、確かに人間よりも間違いが少ない、客観的な判断を下すことが可能なのかも知れません。でも、そこにすべてを委ねてしまうことは、足元が見えない空間に一步を踏み出すような恐ろしさを感じてしまうのは、私だけでしょうか。

AIによる技術の進歩がもたらす社会への悪影響として、以下のようなことが指摘されています。

- ①雇用の減少と労働市場の変化 ... AIによる自動化が進むと、一部の仕事や業務が機械やソフトウェアに置き換えられる可能性があります。これにより、一部の産業や職種での雇用機会が減少する可能性があります。

- ②プライバシーとデータの問題 ... AI 技術は膨大な量のデータを必要とします。データの収集、分析、利用が進む一方で、個人のプライバシーに関する懸念も高まっています。個人のデータが悪用される可能性や、個人の情報が漏洩するリスクが存在します。
- ③偏った意思決定や差別のリスク ... AI システムは、機械学習やディープラーニングを通じて学習しますが、その学習データに偏りがある場合、意思決定や判断にも偏りが生じる可能性があります。また、アルゴリズムの設計やトレーニングデータの選択によって、特定の人種、性別、社会的背景に対して差別的な結果を生むこともあります。
- ④技術格差やデジタル格差の拡大 ... AI 技術を利用するためには、高度な技術スキルやリソースが必要です。経済的な資源や教育のアクセスに制約がある人々は、AI 技術の恩恵を享受することが難しくなる可能性があります。これにより、技術格差やデジタル格差が拡大する恐れがあります。
- ⑤エティック（客観的な分析）と責任の問題 ... AI システムが自律的に意思決定を行う場合、その結果に関する責任の所在が曖昧になる場合があります。また、人間の倫理や道徳的な価値観を正確に反映できない場合、倫理的な問題が生じる可能性もあります。

情報モラル・人間の適切な判断が大切です

人間はこれまでにさまざまな発明をし、自分たちの生活をより便利に、より快適になるように作り変えてきました。自動車や電車、車や飛行機などの交通機関、テレビや冷蔵庫、エアコンなどの家電製品、パソコンやスマートフォンなどの情報端末、また、これらの社会を支える電気、ガス、水道などのインフラ環境等々今の私たちの生活にはどれも欠かすことができないものです。そして、これらのものは大なり小なりのリスク（交通事故や環境破壊等々…）を伴いますが、それらのリスクを私たち自身がうまくコントロールして生活が成り立っているのだと思います。



これまでに私たちの生活を支えてきたこれらの発明品は、多くの場合人間が操作をし、リスクの判断をしながら使用してきましたが、AIはその判断を、膨大なデータをもとに自分自身で判断できるという点が、これまでの発明と大きく異なる点なのだろうと思います。その判断は客観性があり、より多くのデータ（人間で言えば経験）から判断ができるので、より適切で正確である可能性は大きいと思います。しかし、それらの判断を評価し、選択していくのは、やはりわれわれ人間であるべきだと思います。

今回、Chat GPT を中心に AI について採り上げてみましたが、（特に技術が発展途上である）現段階においては、Chat GPT が示す回答が正しいか、あるいは適切か、倫理的な問題がないかは、十分に吟味してから使用する必要があります。きっとこれからは、学校教育の中でも Chat GPT をはじめとする生成 AI の利用の仕方について、子どもたちと一緒に学んでいく時代が間もなくやってくると思います。その時に必要なのは、ソフトの運用の仕方などの技術的なことよりも、むしろ、生成 AI を使って得られる情報ができるだけ適切で正確になるようにしていくような問いの仕方や、得られた情報を取捨選択していく適切な判断や倫理観ではないかと、今回色々なことを調べてみて感じました。

パソコンやタブレットがあるご家庭では、Chat GPT を使ってみようと思えば、すぐにでも利用することができるはずです。（アクセスの仕方はネット上にたくさんの情報があり、しかも、とても簡単です）利用することを推奨するつもりはありませんが、ぜひ、生成 AI を利用する際には、ご家庭でもその使い方についてお子さんと一緒に考えていただければと思います。

先日、NHK の「ニュースなるほどゼミ」という番組で、AI について採り上げていました。とても分かりやすく AI（対話型 AI と番組では言っていました）について語られていました。NHK + で今週末まで見られますので、興味がある方は是非ご覧になってください。AI の話題は今回でひと段落にします。次号はもうちょっと軽い話題を、と思っています。